

令和6年度 八王子市立鑓水小学校学校経営報告書

校長 高田 浩

1 学校経営目標達成に向けた4つの重点項目

- (1) 確かな学力・健やかな心と体
- (2) 豊かな人間性
- (3) 開かれた学校
- (4) 安全安心で信頼される学校

2 中長期的目標と方策

- (1) 確かな学力・健やかな心と体

①学力向上の取組を推進する。

方策 ⇒基礎的基本的な内容の定着、GIGA スクール構想に関連した取組、漢字検定等

②校内研究を充実させ、児童の健康な体と心を育む。

方策 ⇒東京都教育委員会体育健康教育研究指定校としての教育活動の充実や体育科授業の改善、運動に親しむための取組の充実等

③校内研修の充実により、教員の人材育成を図る。

方策 ⇒授業力、生活指導力、外部連携力、保護者対応力等

【成果と課題、改善の方向性】

○基礎的基本的な内容の徹底では、市教委が示した「はちおうじっ子ミニマム」の習得の重要性を教

員に指導したことで、教員の意識が高まった。算数に関しては、全問正解者が前期11名だったのに対して、後期は32名と21名増となった。その後も、校長も個別指導に参加するなどの対策を講じ、中学校に進学した際にできるだけ苦労しないように体制を整備している。次年度は、「はちおうじっ子ミニマム」担当者を指名し、個々の児童の実態をきめ細やかに把握し、個別指導の充実を図っていく。

○学力向上の取組の柱として、次年度からは、授業改善の視点に沿った、新しい時代に求められる資質・能力を意識した内容を設定していく。

○GIGA スクールは、様々な場面での活用がすすみ、教員の活用能力、児童の活用能力ともに向上してきている。今後は、ICT 機器が有効な場面を見極めて活用を行うこと、情報モラルの面の充実等を意識したものにしていく必要がある。

○体育健康教育のアンケートで「休み時間に外で運動や遊びをする」児童が令和5年度39.3%から50.7%に向上するなどの成果があった。次年度に向けては、この2年間の成果をもとにもう一度内容を精選し、児童の健康な体と心を育てていくことに結び付けていく。

- (2) 豊かな人間性

①自他の生命尊重、人権尊重の意識を向上させる。

方策 ⇒思いやりの心と規範意識を育む異学年交流活動（縦割り班活動）の実施、道徳教育の充実、外部人材の活用等

②基本的生活習慣の確立を図る。

方策 ⇒あいさつや丁寧な言葉使い、マナーやエチケットの指導の徹底、「がんばりウィーク」の充実等

③公共精神の育成を図る。

方策 ⇒環境庁会や環境マネジメント活動の充実等

④芸術教科による情操教育で豊かな心を育む。

方策 ⇒音楽会の新規実施等

【成果と課題、改善の方向性】

- 1学期に縦割り班活動の名称を全校児童に募集し「パレットタイム」という名称を付けるなど、児童がより縦割り班活動に愛着をもてる工夫をした。また、外部人材を活用し、リーダーである6年生が集団づくりに必要なことを体験的に学ぶ機会を設定した。
- 外部人材の活用では学校コーディネーターと連携し、様々な体験が充実できた。特に今年度は6年生が「認知症について学ぶ」機会を設定し、インクルーシブな視点を育てる機会となった。次年度も本物に触れる機会の充実を図っていく。
- 全校朝会や日々の生活の中で、あいさつの大切さについて繰り返し指導をし続けてきた。また、校外学習等の機会を活用し、公共の場でのエチケットやマナーについて毎回指導するとともに変容をほめ、定着を図った。
- 「がんばりウイーク」について、教員が劇で大切さについて指導をしたり、家庭の協力を得たりしながら年間5回実施した結果、生活習慣について意識する児童が増えた。一定の成果が出たことから、次年度は行わない方向で検討する。
- 環境教育では、外部人材の指導を受けながら5年生が緑のカーテンコンテストに挑戦し、大賞をとるなどの成果が出た。また、やりみず会有志とともに「やりみずファーム」の活動を立ち上げ、児童とともに畑づくりや野菜づくりに挑戦し始めた。今後も、収穫の喜びを味わわせるなど工夫した取組をすすめていく。
- 今年度、本校初の音楽会を開催し、児童の日頃の練習の成果を発表する機会とするとともに、友達と協力して粘り強く取り組む大切さを感じる機会となった。
- 次年度に向けては、児童が合意形成を意識して活動する機会の充実やあいさつをさらに大切にしたい指導の充実を図っていく。

(3) 開かれた学校

①郷土学習の計画的な取り組みを行う。

方策 ⇒生活科・総合的な学習の時間において八王子市民としての郷土学習や地域交流学習の充実

②地域運営学校を推進する。

方策 ⇒小中一貫教育や保小連携、地域行事へのかかわり、やりみず会との連携、放課後子ども教室との連携、おかえり喫茶との連携等

③学校評価及び授業評価の活用の改善を図る。

方策 ⇒各種評価を教員の資質・向上につなげる。

【成果と課題、改善の方向性】

- 各学年、計画通りに郷土愛や地域交流につながる学習や活動を行った。しかし、今年度、児童・生徒から募集した鑑水中学校区の9年間で育てたい児童・生徒像の中に「郷土」に関する内容は出てこないなど児童・生徒の郷土愛の意識について課題も明らかになった。今後も、児童にかかわる大人が連携して地域のよさを感じることが出来る活動の充実を図る必要がある。
- 校長が着任1年目ということで、保護者の思いや願いを直接聞く機会を設けることを提案し、学校運営協議会とやりみず会と連携して、年間3回の「校長を囲む会」を実施することができた。そのうち2回は鑑水中学校の管理職2名も参加するなど、小中共同で保護者の声を聴くよ

い機会となった。

- 学校だけで完結するのではなく、常に学校運営協議会と協働することで、保護者や地域の意見を学校経営に生かしていくことができるようさらなる組織の充実を図っていく。また、学校運営協議会が中心となり、児童が地域行事に参加する機会を設け、児童の郷土愛や地域を支える当事者意識を育てていく必要がある。
- 今年度より朝の居場所、遊び場づくりとして「あさぷれ」を新たに創設してもらった。やりみず会や放課後子ども教室、青少対、見守りボランティア、おかえり喫茶等、様々な方々や団体に支えていただいている学校であることをさらに自覚し、常に感謝の気持ちをもってかかわっていけるような機会を新たににつくっていく。
- 道徳授業地区公開講座の意見交換会では、校長より問題提起をし、保護者や地域の方とその内容について話し合う形をとった。今後も、参加したいと思える内容を検討していく。
- 保護者アンケートの活用については、教員の資質・能力の向上に結びつけるだけでなく、学校組織力の向上にも結び付けるとともに、保護者からの信頼を得る重要なものであるという意識を教職員と共有していく。
- 小中一貫教育については、今年度、児童・生徒の思いや願いを取り入れたものになるように見直しを図った。令和7年度はその内容に沿って活動を工夫するとともに、保護者や地域の皆様とも共有していくことが課題である。また、年に3回の3校合同の研修の機会のみならず、校長を囲む会ややりみず会のイベント、小学校主催の認知症理解講座の紹介を中学校の全校朝会で行うなど、臨機応変かつ迅速に連携を図ることができた。鏈水中学校のフットワークの軽さに感謝する。

(4) 安全安心で信頼される学校

①安全安心につながる生活指導の充実を図る。

方策 ⇒児童の兆候を見逃さない生活指導、いじめへの組織的で迅速な対応と未然防止の推進等

②SC・関係諸機関と連携した相談体制を確立する。

方策 ⇒学校いじめ対策委員会と生活指導夕会及び校内委員会での児童の情報共有の支援の強化、特別支援教室の教員等と連携した児童への支援の充実等

③児童自ら危機を予測し、回避できる能力を育成する。

方策 ⇒避難訓練、交通安全教室、セーフティ教室及び情報モラル教育の計画的実施

④教育環境整備の充実とサービスの厳正を図る。

方策 ⇒計画の確実な実施、服務事故防止研修の計画的実施、アレルギー対応の徹底等

⑤教職員の働き方改革を推進する。

方策 ⇒勤務時間の改善を図る。

【成果と課題、改善の方向性】

- 児童の変容については、気付いた教職員から担任→学年主任→生活指導主任→管理職と連絡し、組織的な対応ができるよう、教員一人一人の意識が高まっている。特に、いじめ対応については、毎週金曜日に実施しているいじめ対策委員会を待たず、いじめの疑いがある状況で臨時のいじめ対策委員会を実施するなど迅速に動くこともできている。保護者アンケートのいじめに関する項目は前期87%、後期85%（昨年度後期85%）と若干下がっている。今後はいじめ対策についてさらに保護者に理解してもらえるよう情報発信を丁寧に行っていく。
- 前述しているが、次年度は、いじめについては、児童自らが正しく理解し行動できる力を身に付けられるように、互いの意見を尊重できるよう合意形成の場面を大切にした指導を行っていく。

- いじめ、不登校、特別支援教育等、一人一人に寄り添った指導ができるよう、また、学校だけでなくさらに専門的な知識や技能をもった方からの助言を適時うけられるように準備している。
- 生活指導主任を中心として、先を見通した事前指導や市教委からの情報提供等があった際に迅速に教員一人一人にその内容がいきわたる体制が整っている。避難訓練では「自分の命は自分で守る本物の力」を育てるという合言葉で1年間指導してきた。有事は学校で起こるとは限らないため、今後は家庭や地域とも様々なことを共有していく必要がある。
- 本校では、学期の初めと終わりに定期的に服務事故防止研修を実施するとともに、適時考えた指導を管理職が行っている。
- 教員の働き方改革は、大きな課題であると考えている。次年度は、1学期の通知表の所見を、個人面談に代えて、廃止することとする。